

IUHW

The gazette of International University of Health and Welfare



平成14年度
6月21日発行

特集

新学科長インタビュー

(中西先生・新井田先生)

第7回 運動会

視機能療法学科

AMSAジャパン

支え合う心は一つに



発行：学校法人国際医療福祉大学

編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線 8116

ホームページアドレス <http://www.iuhw.ac.jp/>

E-mail: media@iuhw.ac.jp

新学科長インタビュー①

看護学科 中西睦子先生

鈴木 今日本、看護学科長の中西先生に色々とお伺いしたいと思うのですが、始めに、いつでも出る質問だと思うのですが、本学に着任されての印象はいかがですか？

中西 大学全体として申しますと、そういった開放的な印象を持ちました。土地柄もあると思うんですけど、所帯の大きな大学の割には開放的で、とかだなどと思いました。

鈴木 学生についての印象というのは、まだ目が浅いとは思いますが、いかがですか？

中西 そうですね、直接全体の学生と接しているわけではありませんが、同僚で接した範囲では非常に真直く、さわやかな印象を持っておりまして、非常に元気がいいて、活発な学生さん達だなと思っておりまして、そうですか、もう早速授業は始めておられるんですか？

鈴木 授業はですね、看護学科の方は、いまでも、放課後、情報科学科の看護概論という授業を一つ持たせていただいています。

鈴木 この大学には、全部で八学科あつて、全国では多分一番規模の大きい保健医療福祉の総合大学だと思つていますが、その中でもとりわけ、看護学科は我が大学の看板学科といえますか、

中西 そうですか。(笑)



△看護学科長 中西 睦子 先生

鈴木 先生は今まで大変豊富な経験をお持ちですが、これからの看護教育についての理想といいますか、こんな教育をしたい、というような抱負をお持ちですか？

中西 はい、他の学科の場合と同じだろうと思いますが、国家資格につながる専門家を育成するという教育の場合には、必ずマンパワーの全体の輪が広がって、その上でその教育が成り立っているという、たえずその教育の動向を見ていかねばなりません。現在ですと看護職は毎年国家試験を受ける人の一割強が卒業ですね。ですから、全体の中で点める割合が非常に少ないグループですので、その人達に現場や社会がどういう期待をしているのかという事を、しっかりと自分で認識して大学を卒業していきけるようにしたいと考えています。具体的には、一つはやはり現実的な課題解決の力を持つ、欲しいということですね。ご存知のように、制度が非常に大きく動いていますから、先見性というのでしようか、先の動向を前もってということが必要になってきます。それからもう一つは、看護は何でもやる職種ですので、全体としてやはりマネージメントの力がつかないといけないと思つて、私がやる仕事はここまです、というわけにはいきませんので、多様な仕事や情報を上手に組み立てて、効率よくやっていける力というのが求められてくると思つています。それを、大学生の教育の場合には、意図的に出してやっていきたいと考えております。

鈴木 介護保険法が実施されて、ケアマネジャーの資格を取られた方も、看護師が一番多い集団だと思つていますが、現実にも訪問看護ステーションとか、介護保険の中でもケアマネジャーとしてコーディネートのお仕事をされている看護師が多いと思つていますが、この介護保険のケアマネー・システムにおける看護師の関わり

などについてはどんな評価というか、ご意見を伺っていますか？

中西 今、色々な職種の方が入れるようになっていて、最終的にはおそろくケアマネジャーは看護職が引き受けてやっていくべきものと考えております。やはり、目の前にいるクライアントの方と、その方を取り囲む生活環境をきちゃんと関連付けて捕らえることができない職種として看護職は力を発揮しているというように見ております。個人だけを取り出してこの人は手が動く動かないということを評価するのではなく、やはり生活の中で何ができて何ができないか、ということを見通す力を、看護師は学んでいけると思つております。

鈴木 社会福祉士とか介護福祉士を養成している立場から見ると、ケアマネジャーの大方は絶対的に看護職の方が多いようですが、将来は、その太方を看護師が介護福祉士・ソーシャルワーカーかそとちからのかの職種で担っていくのかなど、そんなふうにも思つていきますか？

鈴木 ま、介護福祉士の方もかなり看護職と近い所で活動されておりますので、そうですね、看護と介護と家政というこの三つは、非常に重なり合ひながら成り立っている職種だと思つています。最後に本学の学生に伝えたいこと、特に看護学科の学生さんになるかと思つて、けれども、先生がぜひ期待したいとか、伝えたいと思つておりましたら、お話ししたいのですが。

鈴木 そうですね、先ほど国家試験を何人受けるという話をいたしましたけれど、看護職は、専門学校を出た人、短期大学を出た人、あるいは進学試験を出た人と、教育背景が様々でも、制度的には全く同じ処遇を受けることになっておりますので、大学を出た看護職が特別ということはありませんので、そういう状況の中で自分がどういう役割をとるかという事を、自分で決めて選択していかねばいけません。整えられた道があるわけではありませんが、自分で考えて自分の将来を創っていくという気構えを持って欲しいということだけは、どうか

中西 そうですね、在職期間と申しますか、定着率と呼んでいますが、定着率は十年くらい前に比べますと、七、八年伸びております。ですから、定着がよくなつてきている現状にあります。それからマクロに見ますと、二〇〇七年で需要と供給がほとんどになるといふことです。ただ地域格差の問題はありますけれども、ほとんどになるというところは、その後は多ブツになってくることですので、時代動向も今までの材料に考えられてしまつてしまつて、常に看護師不足ということですね、これは他職種も含めて、教育水準を上げれば定着率はよくなるんですよ。水準を上げると二年とか三年とかという、できるだけ短い期間で一入前にしようという教育制度をずっと続けてきていますので、それはなかなかよい定着が得られないのは当たり前のこと、うかつに思つております。

鈴木 なるほど、良く分かりました。今日はどうもありがとうございました。



△中西看護学科長と鈴木広報委員長(医療福祉学科長)との対談は終始和やかに進みました。

新学科長インタビュー②

視機能療法学科 新井田孝裕先生



△視機能療法学科長 新井田 孝裕 先生

鈴木 これから視機能療法学科のお話しを伺いたいと思うのですが、まず始めに、四月からこの大学に着任された大学の印象とか学生の印象はいかがですか？

新井田 私、神奈川県から引っ越ししてきて、広大なキャンパスを見て、つくづく学生さんものびのびとすばらしい環境の中で教育を受けているなという印象を持っておりま。

鈴木 そうですか。視機能療法学科の学生さんは何名ですか？

新井田 今年は四十九名入学いたしました。視機能療法学科というのはどのような教育をされているところなのか、初歩的なことなのですが、教えていただけますか？

新井田 わかりました。視機能、目に関するリハビリというのが大きな目的ですけれども、具体的には昭和四十六年に制定された視能訓練士法というのがありまして、視能訓練士というものは、国家資格である視能訓練士を目指して教育を行うところなんです。



△広報委員長 鈴木 五郎 先生

鈴木

視能訓練士というのは、元々は主に子供で目の位置がズレている斜視の患者さんや、調節視などの屈折異常等とかが原因で視能の発達が遅れていて、患者さんの検査、治療、訓練にあたるという目的でつくられた制度なんです。ですから、一般的には斜視、弱視のお子さんを治療する医療専門職という位置づけなのですが、現在では眼科の医療現場でドクターと一緒に、一般的な視力屈折検査とか、視覚の感度分布を測定する視野の検査とかです。他にも電気生理検査とか色々とあるんですけれども、眼科の全般的な検査業務をこなすことが第一の仕事になってきております。

鈴木

そうなんです。本学のコンピュータの分野は病院に比べてどうですか？

鈴木 そうですね。最近ではロビービジョンケアといまして、色々な目の疾患で視力が低下したり、視機能が弱くなってしまう人達の色々な介護といえますが、リハビリも行います。拡大読書器とかさまざまな補助具の測定とかその装置指導とかですね。そういうロビービジョンケアというのも段々大事な仕事のひとつになってきておりますので、今後力を入れていきたいと考えております。

鈴木

今、国家資格をお持ちの方は全国に何名くらいいらっしゃいますか？

鈴木 七、八年間までは全国で養成校が三校しかありませんでしたので、年間一〇〇名足らずの卒業生だったんですけれども、現在では養成校が十七校に増えまして、資格を持している人は四千名を越えていると思います。ただし、今まではほとんど女性の方が多かったのですが、しげらしく働いてからご家庭に入られる方も多く、実働的には三千名弱の方が常勤として働いておられると思います。

鈴木

高齢者で、高齢者の絶対数がこれ

から約半世紀増えつつあるんですが、高齢者の増加と視機能療法というものは、関係があるんでしょうか？

新井田 もちろん、ございます。ご存知のように高齢者の方というのは、まず白内障で、目の位置がズレたり、調節の病気で、白内障のため視力が下がって、眼科で手術をお受けになる患者さんが年々増えており、このような患者さんの術前・術後の視機能の検査や評価はとても重要です。その点から最も近接しているんですけれども、カメラのフィルムに相当する目の網膜の中心部分が、段々弱ってくる黄斑変性症という病気が、何年をとるほど増えてきます。この病気では、何かを見ようとしても一番よく見える視野の中心部分が見えないので患者さんは大変苦痛を感じます。このような患者さんでは、残った視機能でいかに上手に生活していくかというロビービジョンケアにながらんでいけるんです。そういった意味での視機能の評価、介護も非常に大事になってきています。

鈴木

長寿社会になると、高齢者が生活していく上では視力の問題というのは基本的なことのように思いますので、関わりは結構大きくなりそうですね。はい、大きいと思います。人間というのは、視覚が情報源の八割を占めてくるといわれていますから、視覚が衰えてくるといのは非常に日常生活にも不便が出てきます。視機能は、どうしても高齢に伴って徐々に低下してくるんですけれども、それを補うような手術法の進歩や、眼鏡を含めた、光学的治療法も色々と実用化されてきていますので、今後ますます重要になると感じます。

鈴木

今お話ししていて、私の福祉の立場から思いついたんですが、特別養護老人ホームや老人保健施設などの、高齢者が集団で生活しているような場所と、視能訓練士さんというのは、何か関わりは生まれてくるんでしょうか？

鈴木

現在ではほとんどないですね。ただ、今後やはり視能訓練士の業務を拡大していくという意味では、高齢者の関連施設のところにも徐々に視野を広げて進出していくというのは大変重要だと思えます。

鈴木

そうですね。適切な眼鏡の使用をし



△新学科、視機能療法学科について対談する新井田学科長と鈴木広報委員長（医療福祉学科長）

第7回 国際医療福祉大学 運動会

運動会報告

医療経営管理学科 初優勝



（右写真）初優勝に喜ぶ医療経営管理学科

去る六月一日、第七回国際医療福祉大学運動会が開かれました。

当日は初夏を感じさせる天候で、心地よい陽射しに汗を流しました。昨年度まで二連覇のRT学科に、三連覇はさせしと気合いを見せる他の学科、なかでもHM学科は、岡内先生と福原先生に魂を吹き込まれ、競技前半から首位を独走。そのまま最後まで燃え上がり、初優勝の栄冠を手に入れました。

また、一年生のみで初参加となつたORT学科は、少人数ならではのまとまりの良さと大健闘。来年に期待が持てます。なかには自費した競技にアツくなり過ぎたり、勢いあまって負傷した学生もありましたが、全体的には、短い準備期間のなか、計画から準備・運用まで実行委員の主体的な努力による、よい催しとなりました。

実行委員長より「運動会を終えて」



今年から参加の視能聴覚学科の健闘に拍手をのこりたいと思います。とくに応援のさわやかな活躍は印象に残っています。各学科で協力・応援しながら盛り上がり、たこととはとても良かったです。ありがとうございました。

運動会を終えた今は安心したというよりも、なんだか寂しいですね。委員会は約一ヶ月前から運動会実行委員会総勢六十名で活動を開始しました。競技内容を考案・競技に使う道具の準備・ボスターの作成、抽選会の賞品の準備などを中心にのこらなっていました。夜遅くまで集まって準備してくれた委員に心からあつかまさを言いたいです。

また、学生課の野沢さんには大変お世話になりました。ありがとございます。そして、委員会を支えてくれた実行委員に感謝します。ありがとう。今は、三年生のあいだにたくさんのお礼や後援に回すことが何より宝物です。

（理学療法学科 三年 廣田智）

運動会に参加して、「最初の種目、人数不足で棄権」という非常事態で、十四年度の国際医療福祉大学としての運動会は、医療経営管理学科のデントの医療経営管理学科は、昨年度までは、学科一丸となつて最初の種目から一位を独占していた。だが、我がH.S.学科も、午後になるとようやくやる気を出し始め、総合点でも少しづつ追い上げ、上位に食い込んできた。特に騎馬戦では、四年生を中心に作戦をたて、最後の種目は、H.S.学科にとうてい鬼門である、逆転リレー。毎年ここで順位を大きく落としてしまふ。今年こそはと意気込んでみたら、今年もリレーの壁は厚かった。順位だけを見れば、良い結果とはいえないが、学年に関係なく、皆が楽しめた運動会だった。来年は参加できないが、来年こそ是非、悲願の優勝を果たしたい。

（医療福祉学科 四年 伊沢裕輔）

▽韓国語と日本語を使ったユニークな選手宣誓。



△運動会初参加となる谷学長、学生とともに競技にも参加しておりました。



△ひよこの会の子どもたちとボランティアの学生とともに参加。

▽先生も生徒に負けじと大きく口を開けてパンをくわえていました。



▽みんなで力をあわせた見事な人間ピラミッド。



△今年、初参加となる視能聴覚法学科も見事なダンスを披露。少ない人数で頑張っていました。



△近隣地域の方々も大勢見学に見えていました。

▽外国から来た方も運動会を楽しそうに見学。



▽優勝カップは医療経営管理学科のもとに、来年はどの学科が手にするのでしょうか。



△最後の逆転リレー、選手も応援とともに最後の力を振り絞りました。

AMS A 春の国内交流会 in 国際医療福祉大学!!

みなさん AMSA (Asian Medical students' Association) という団体を知っていますか。AMSA とはアジアを
始め海外の保健医療事情に関心をもち日本国内の医学生が大学
の枠をこえて意見・情報を交換しお互いの視座を高め、幅
広いビュースネットワークを形成することを目的に設立さ
れた団体です。現在 AMSA ジャパン
は日本国内においては海外の保健
医療問題に関心をもち医学生・医療
学生の情報交換、交流活動の場と
なっています。今回、五月十一・十二
日の春の国内交流会の主賓校として
国際医療福祉大学が立候補し、医学
部系大学以外では初めての交流会開
催となりました。交流会の中では初
山大学院長の講演やディスカッション、
ワークショップなどが行われま
した。今回はこの交流会の中で多く
の方にインタビューにご協力いた
だきましたので紹介いたします。

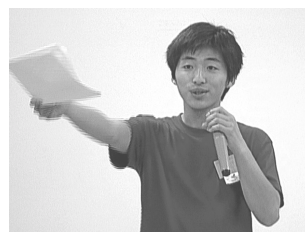


初山泰弘 大学院長
— 今回、この交流会で講演をしてみようと思われましたか。
今回講演をさせていただいて、皆さんのいくつかの質問にお
受けただけなので深くは言えませんが、若い医療関係
者の人たちが医療の問題について熱意を持って連携をし、開
発途上国にも支援をしていくという考えを持っていること
は大変うれしく感じています。

— 医療や福祉に携わっている学生に一言お願いします。
医療に携わっている若い人には、ぜひこれからは、医療だけではなく福祉などもいる面が必要になってくると思われ、まず、自分の技術を身につけると同時に出来るだけ周囲の専門職の人と交流を図る努力をしていただきたいと思います。それが、最終的には障害を持った人や高齢者に役に立つのではないかと思います。



主管校 国際医療福祉大学代表
理学療法学科四年 玉井洋平さん



— この交流会に参加するきっかけを教えてください。
私は以前から海外に興味を持っていて、二年先輩の長谷川さんに相談をもちかけたところ、海外研修に行けてなかかつ勉強が出来るといふ AMSA のことを知りました。私は英語を話せないのですが、この会に参加しているいるなことを勉強できればと思ったのがきっかけです。

— 今回の交流会をどのようなものにしたいですか。
今回の AMSA では、専門的なことを議論するのととも AMSA の交流会をきっかけとして国際医療福祉大学の学生にもより多く AMSA のことを知ってもらい、今後に繋がるような物になればいいと思っています。いろいろな場所から集まったコメディカル分野の医療に従事する学生どうしが今後さらに関連職種との連携を図れるネットワークを築いていける交流会になってもらえればいいと思っています。

AMSA ジャパン代表

大阪大学医学部六年

木嶋敦行さん

— AMSA とはどのような団体なんでしょうか。

— 木嶋敦行さん
もともと、日本人の医学生が海外に対する興味を持ったのがはじまりで国際協力に興味をもった医学生がまずフィールドとして選んだのがタイで、タイの医学生とコンタクトをとり相互で行き来するようになり、その時は日本からタイへと一方的な形だったのですが、実際日本人の医学生がタイへ行ったときに非常に社会的な問題や文化的な問題が、いかに医療に影響しているかということの問題意識として持ったというのが始まりで、その中で始めて日本とタイの医学生が



医療のことをどのように考えているかという点について会議を開いたのが AMSC (Asian Medical students' conference) の始まりで、それがこういふ会を最初に関いて今後も同じような形で毎年開いていくという形で続いているのが AMSC という会で、その中の日本支部として活動し、日本の中で意見をまとめる海外に情報を発信してゆく機関が AMSA JAPAN という団体なのです。

— 国際医療福祉大学で交流会を開くようになったきっかけを教えてください。
直接きっかけとなったのは国際医療福祉大学の学生が AMSC に参加されたことがありまして、その中で AMSA という団体、AMSA というのはもととメデイカルスチューデントの団体で海外で言うところの医学生だけの団体なのですが、日本ではそういう制限をやめようということになっている医療従事者や医療関係の学生を対象とした団体をつくられているのが、その中に参加した国際医療福祉大学の学生と人的な交流が深まって、彼がこの交流会のことや AMSA のことを国際医療福祉大学の中で宣伝してくれて、国際医療福祉大学の中で団体の活動が高まるにつれて、一度国際医療福祉大学のほうで交流会を開いてみたいという話があり、AMSA の方としてもお願いしたいということで今回の交流会を国際医療福祉大学で開くようになりました。

(インタビューへのご協力ありがとうございました。)

大学院研究報告会

さる五月二十五日(土)、修士課程二年生の研究経過報告会がありました。遠隔授業教室一室を借りて四キャンパスを結び、午前十時から午後五時まで、昼休み以外は小休憩もなしというハードなスケジュールでした。

院生は原則として各自の所属キャンパスで発表。教員もそれぞれの都合に従って最寄りのキャンパスで参加。発表者は二会場にありわけざるを得ませんでした。今年度は A 教室系列で言語聴覚学、理学療法学、福祉援助士学分野の院生の発表が、B 教室系列で看護学、作業療法学、放射線・情報科学、医療福祉学、医療経営学分野の院生の発表が行われました。総勢六十二名でした。

発表時間七分、質疑応答三分という時間制限は、発表者にも討論参加者にも無念を残したことでしようが一方でこれが、研究の凝縮度を示すバロメータにもなりました。異分野の人間が一堂に会しての討論は、なかなか刺激なところがありました。

初山大学院長による講話は、各人の力を伸ばさうものとしたが、中に「非常に完成度の高いものがある一方で、こんなことでもいいのかと思うものもあった。ただしこれは指導者の責任」という厳しい一言もありました。(鎌倉知子)

視機能療法学科が本年四月に視能訓練士

視能訓練士の具体的業務

人間は生まれた直後から徐々に物を見ることを学習し始め、六歳ほどで成人と同じくらいに良く見えるようになるといわれています。しかし、この時期に何らかの原因で視機能が正常に発達していけないと、様々な物を見る機能は大きくなってから治療しても十分な視機能がえられない場合があります。このようにデリーケートな目を検査し、斜視や弱視などを持つ人に対して視能矯正訓練を行うのが、視能訓練士の仕事です。テクノロジの進歩によって眼科における検査は日々精巧かつ複雑になる傾向にあり、求められる知識は増すいっぽうです。それでは仕事の内容を具体的に示してみます。

の患者さんに視機能回復を目的とした矯正訓練指導を行います。

三・低視力者の方へのリハビリ指導（ロービジョンケア）：高齢化社会を背景に糖尿病などから起こる目の障害や、緑内障、網膜色素変性症などの眼疾患で重度の視機能障害をもつ患者さんの数は増加傾向にあります。眼疾患、残存視機能について十分な専門知識をもつ視能訓練士は、このような低視力者の方々に対する拡大鏡などの補助具の選定やその使用に関する指導を行います。

四・集団検診・視機能スクリーニング：病院内での眼科検査だけでなく、早期発見、早期治療および予防医学の観点から地域医療活動に参加し、乳幼児健診・学校健診・職場健診・生活習慣病健診など、各種健診において視機能スクリーニングを行います。また、目の愛護デー等にも参加し、多くの人に目について知ってもらうよう活動を行います。

本学視機能療法学科の

夏期海外研修・活動

単位認定科目である海外研修・活動は、七月二十九日、八月十二日に行われる予定です。ベトナムは六回目となるチョーライ病院（ホーチミン市）でのボランティア、中国は五回目となる中国リハビリテーション研究センター（北京市）での専攻別研修、アメリカはミレニア社企画のセミナール系ナースングラームでの活動（同サングラーム）です。

むき化社会において、慢性疾患の増加とともに中高年の低視力者の増加、職場のOA化などを背景として、視能訓練士のニーズはますます高まっています。卒後の活躍の場としては主に、病院、リハビリテーションセンター、眼科診療所、保健所などの医療機関をはじめ、大学や養成施設などの教育・研究機関、また医療行政機関、国際機関、医療機器関連企業、医薬業関連機関などの機関からの求人が予想されます。

夏期海外研修 ・活動

ひ高齢化社会において、慢性疾患の増加とともに中高年の低視力者の増加、職場のOA化などを背景として、視能訓練士のニーズはますます高まっています。卒後の活躍の場としては主に、病院、リハビリテーションセンター、眼科診療所、保健所などの医療機関をはじめ、大学や養成施設などの教育・研究機関、また医療行政機関、国際機関、医療機器関連企業、医薬業関連機関などの機関からの求人が予想されます。

本学視機能療法学科の

特徴と活躍の場

一、眼科診療でのさまざまな視機能検査
：目の病気で「何か見えにくい」と患者さんが訴えた場合、視力やメガネだけがその原因とはかぎりません。近くが見えにくい、暗い所で見えにくい、色がわかりにくい、見える範囲（視野）が欠けている、ゆがんで見えるなど、様々な症状があります。視能訓練士は眼科医の指示のもと、目の状態を各種眼科医療機器にて検査し、診断・治療に活かします。視機能検査とは視力・視野・屈折調節・色覚・光覚・眼底・眼位・眼球運動・瞳孔・涙液・涙道・超音波・電気生理学、写真撮影検査などです。

二、弱視・斜視患者さんへの訓練指導
：目の位置（眼位）がずれている斜視のため両目でものを見る両眼視機能に障害があり立体視のできない患者さんや、生まれつき強い屈折異常や斜視が原因でメガネでは十分に視力の出ない弱視

保健・医療・福祉の総合大学である本学の特徴を最大限に生かし、視機能のメカニズムおよび検査全般を学ぶだけでなく、医学全般また乳幼児から高齢者に応対できる講義・演習を行うことで、医療の現場であらゆる視点から視機能にアプローチすることのできる視能訓練士の養成をめざします。一般眼科だけではなく神経眼科や小児眼科、ロービジョンケアに関する専門知識の修得も行います。そして高度な専門知識と技術を有することはもちろん、眼科医や看護婦をはじめとするコメディカルとともにスムーズな連携を保ち、チーム医療の中心を担うことのできる優れた人間性を合わせもった新しい時代の視能訓練士を育成します。また実習病院で眼科検査・視能矯正の臨床体験を積み重ねて、卒後即戦力となるプロフェッショナルを養成します。急速に進



△視機能療法学科の学習の
中心となるM棟です。

視能訓練士学科が本年四月に視能訓練士
（Orthoptist or Optom）を養成する全国で四番
目の大学の学科として一学年定員四十名
にて開設されましたので簡単に紹介さ
せていただきます。近年、特に病気の早期
発見・早期治療が提唱されるようになって
います。これは眼科医療においても例外
ではありません。人は情報の約八十%が
視覚により獲得されているといわれてい
ます。多くの情報からなる日常生活に大
きく関わっている目の健康管理をする
べきです。視能訓練士は欧米では古く
から医療専門職として活躍しており、わ
が国では昭和四十六年に成立した医療
練士法に基づき国家資格を取得した医療
技術者です。視能訓練士は眼科医と共同
でプログラムの組み、視覚障害を持つ人
たちの視機能の回復を手助けします。視
能訓練士になるには大学などで所定の力
りキユラムを含む教育課程を履修後、国
家試験に合格することが必要となります。
国家試験の合格率は例年、全国平均で九
十八%前後と発表されています。平成十
二年三月三十一日現在、眼科医二、一〇八
六名に対し視能訓練士はわずか二、八七
八名と少なく、今後一層の人材育成が期
待される専門職種です。

トピックス

『未来を拓く』ハンセン病を通して見えてくるもの』

ST三年 飯沼敏一
ST三年 井上明日葉
ST三年 榎野利恵
NS三年 皆川毅
五月八日(水) D三〇五教室
で「未来を拓く」ハンセン病を通して見えてくるもの」講演会が行われました。

タラという村は、フィリピンのらい菌保有者に対する政策の一つで、おもにハンセン病患者とその家族が暮らす村です。その村に暮らすHoly Rosary Communityの生徒、アンナとクラリスの二名が来日するという話を聞き、ハンセン病をテーマにした講演会を通して彼女達と交流したいという思いからこの会を企画しました。

当日の講演会では、彼女達の、フィリピンにおけるハンセン病患者の生活というテーマの講演を聞くことで参加者だけが勉強をしたのではなく、日本でハンセン病に人生をかけてこられた大谷隆郎総長にも、日本におけるハンセン病患者の人生回復の道というテーマで講演をして頂くことにより、彼女達にも日本のハンセン病患者に対する政策を知ってもらいました。彼女達にとってもまた勉強となった講演会でした。

それぞれの国の違いを比較することで、新たな発見をし、私達の明日を拓いていくエネルギーとなった講演会だったのではないのでしょうか。



△フィリピンにおけるハンセン病患者の生活についての講演の様子です。



△ハンセン病について講演をする大谷総長。

JICAリハビリテーション

専門職養成プロジェクト

「中国リハビリテーション研究センター 訪問・回帰来校」

研究センター 訪問・回帰来校」



平成十四年五月十二日(月)五月十九日(日)の二週間、本学は表記JICAプロジェクトの一環として高文雄、張鳳仁、王淑香(中国リハビリテーション研究センター)・梁万年、崔樹起(首都医科大学)の五人を迎えた。今回の訪問目的は理学療法士・作業療法士養成教育に関する研修であり、とりわけ教育に用いる教材(テキスト)準備が急がれた。二〇〇一年・二〇〇六年までの今回のJICAプロジェクトのJICAプロジェクト(理学療法士・作業療法士四年制課程)の設立を目指している。一つは教員の養成でありすでに六人の中国の理学療法および作業療法分野の専門家が本学大学院前期課程で学んでおり、今後二〇〇六年までに合計十名の教員養成に当たる。他の一つは、中国での四年制教育課程の確立と協力であり、この回もすでに大学および大学関連の理学療法士・作業療法士が北京市中国リハビリテーション研究センターに出向き(長期・短期派遣)設立準備に当たっている。今後引き続き関連教員を派遣し、協力していく。今回の一行の中には日本が初めての方が二人おられ研修の合間に、日光・浅草・皇居・銀座見物をし、日本のライフラインに感激を打っておられたようである。今回の一行の研修にお忙しい中、ご協力をいただいた教職員の方々に厚く御礼を申し上げます。

(JICAプロジェクト 国内委員 杉原孝子)



善勝川清掃活動に参加



去る五月二十六日、大田原市内を流れる善勝川の清掃活動が行われ、本学からも、教員、学生計三十名が参加しました。市の中心部の濁水を源とし、市街地を流れる善勝川は、イトヨやヘイケボタルなど貴重な生物が生息する清流として知られています。が、近年、環境の悪化が懸念されています。

この日の清掃活動は、市内ロータリークラブと、大田原市・高校の生徒等約三〇名が参加しました。真夏を思わせる晴天のもと、本学関係者も地元の中高校生とともに、空き缶やペットボトル、紙くずなどを拾い集め、いい汗を流すとともに、限られた時間の中で、目下あまり交流することの少ない地元の方達とも、周囲の様子について情報交換する等、よい交流の機会となりました。

(小林雅彦)



図書館より

「図書館にどんな本があるのだから?」「利用したい本が図書館にあるだろうか?」そんなときには図書館の蔵書検索機(Catalog)を「利用下さい。また、図書館まで足を運ばなくても図書館のホームページ(<http://lib.tuhw.ac.jp/>)で所蔵を確認することが出来ます。是非一度、図書館のホームページを開いて利用して下さい。」

○ 大学院

この点が本年度から少しずつ改善されてます。まず図書費を出し、文獻取り寄せにについては、実質面では本校と変わらぬサービスを提供することになりました（通常より長期の貸し出しを認める、要請のあった院生が所属するキャンパスへ、迅速に書籍、文獻を届ける、など）。どうか目一杯活用して下さい。

○看書字科

また施設で勤務している卒業生たち（菊池理恵さん、三浦大介さん、永森惇一さん）が、勤務状況や看護に対する思い、悩みながらむ先遣や上司に支えられて看護に取り組んでいる様子など体験を話してくれました。四年生にとっては、先輩から生の声を聞く貴重な機会でした。

に幸多くありますように。……
三年生も他人事ではありませんよ。

○ 理学療法学科

多国籍理学療法学科

四月から早一ヶ月が過ぎた。一年生はフレックシユマンキヤンプでPT先輩の流れを受け、今まさにPT学科に染りつつある。勉強では解剖・生理・運動学を中心に気合い充実。二年生は後輩ができて先輩の自覚一入。同時にPT臨床科目が始まり緊張さめ。三年生は二年生の面倒をみつづけてPT治療科目が多くPTへの志を篤くしている。四年生は最優秀学生の賞状を飾っている。

就職も思案し、また臨床実習と卒業研究で非常に忙しい。藤沢先生が六ヶ月の北京出張から無事帰国。続いて黒沢先生が北京へ。

今年度、学部・大学院に中国七名、台湾一名、ケニア一名、フィリピン一名から留学生が来られた。教員では海外青年協力隊で活躍された石井先生が着任。多國籍理化学療法学科と言った要聞号。四月国試の発表で安堵したのが正直なところ。在校生、中弛みにならぬよう、気を引き締めて前期後半に望みたいと思う。

○作業療法学科

作業療法学科交流会続々開催中

初夏を謳歌していますか？五月病になっていませんか？ヒトは周囲の状況を言動化して認識することで不安感や焦燥感を減少させることができるそうです。よき仲間と出会い、話をしながら学生生活をすこして居たいと願います。一人で悩みごとを抱え込んでいたりする時、人間、人生には必要なときがあります。が、先人たちの知恵を借りることであつという間に解決することがあります。過剰なストレスを感じることがありません。必要はないでしょうか、気軽に先輩や先生に声をかけてみましょう。

声をかけられる四年生のみなさん、きつと勉強にいらしてらっしゃることでしょう。球技大会、運動会、バーベキュー大会などのイベントもさることながら、卒業アルバムや音響CD制作も行っているとか。あれ？いやいや、国家試験や総合英検、そして就職・進学へいむけた準備もがんばっていますよ、知っていますよ。学生のみなさんが取り組むことのひとつひとつが歴史になっていきます。どんなやりましょう。

(濱口豊太)

○放射線・情報科学科

新入生に数学補習を初実施

なつていますが、當学科でも今年度は學科をあげてこの問題に正面から取り組み、數學學力向上を目指した補習授業を試行することにしました。この數學補習を入学直後に集中的に行うことによって、早期に短期間で必要とする數學レベルに達してもらうことが目標です。そのため、平成十四年度の新入生に対してオリエンテーション期間中に數學基礎實力試験を行い、その結果をもとに補習対象者を厳選して、四月と五月の毎週月、木曜日の六時限に補習を実施しました。補習対象者は四月が八十一名、五月が三十一名でした。補習の指導は數學に關係の深い科目の教員が、卒研生の支援も得て交代で担当しました。この補習を通して見える新入生の數學力は、基礎的計算ミスや勘違い計算などの計算力不足であり、また少数ではありますが基本的な誤りをするものもありました。初めての試みで肉体的に改良の余地はありますが、今回の補習の成果を樂しみにしております。(野原功全)

○ 医療経営管理学科

「新人生歓迎！体育会優勝！」

とっ！ 本学科にとって最近の大きなイベントは新生歓迎会と体育祭でした。
歓迎会では、一年生はほぼ全員出席したの
は言うまでもないですが、二・三・四年生の先輩
達がダンスやゲームなどの企画運営をして、
延べ人数およそ三百名で同会を大いに盛り上
げてくれました。

また、六月一日（土）に開催された学科対抗の運動会は、開学以来万年最下位だった本学科が、二位に四回以上も差をつけて、ブッチギリの優勝をしたことです。優勝したことが凄美？！として、Ｔ先生のツツパリ風切り込みメイク、Ｓ先生の長年育んだヒゲ剃り、そして何よりもＦ先生の丸坊主という公約（名義のため匿名にさせて頂きます）が、学生達の優勝への原動力になったのは言うまでもありません。このような学科としての求心力が、顯動だけでなく、勉学へと向けられることを願って止みません。

ティフェンディングチャンピオンの宿命として、来年は他学科から標的となることは必至ですが、ぜひ次年度も健闘してもらいたいです。

(開原成光)

○基礎医学研究センター

素晴らしい生物の自殺

いまだライオンからは、異國なうたが
煙を派山みます。この gazebo が出る頃は吸烟
の喜びの時でしょう。けれど、このことは、表
といる植物の集團自殺を意味します。表は一
年草だからこの季節になると必ず枯れ死に
ます。水が不足したわけでも目の光が多すぎ
たわけでもない。表の遺骸が、つまりゲノムの
中に、表の暗号で書き込まれている“死”の
プログラムが発現して、根や茎の細胞が自殺
して、植物全体が枯れてしまうのです。時のめ
くりとともに落ちていく落葉をみて、古代
ヒボクラテスは「aeon」「離れる」「plastics」
…空を飛ぶをうたげて (apoetosis) アポト
シスという言葉を作りました。このアポト
シスは一九七〇年代、現代生物学の最大の話
題として再登場しました。脳や免疫など高次
システムが機能するために、多くの不要な
細胞や好ましくない細胞が「アポトシス」
死ぬことが必要だし、癌などの異質化した細
胞も除かなければならないのです。

○健康管理センター

「五月三十一日はWHO世界禁煙デー」

一九八九年のWHO総会後、毎年五月三十一日を「世界禁煙デー」と定め、喫煙と健康問題の認識を深める目としました。日本医師会（の坪井会長）今年四選されました。は昨年、日本が喫煙に關して後進国であるという事実（男性喫煙率が六十%と先進国の中でトップ）に對して、日本医師会が積極的に禁煙活動を進めしななければならぬと宣言しました。それを受けて昨年からは日本医師会による種々のタバコの煙の有害成分は二百種類以上と言われており、その代表は多数の発癌物質を含むタールと、依存症の原因ともなるニコチンです。喫煙と關係の深い癌というは肺癌がすぐには挙げられませんが、肺癌だけではなく喉頭癌・咽頭癌・食道癌も関連が濃厚で、その他胃・脾臓・膀胱などの癌が挙げられます。また喫煙のリスクは癌だけではなく、慢性閉塞性肺疾患、動脈硬化、虚血性心疾患を引き起こす原因としてもよく知られています。

部会・委員会報告

○語学教育センター

世界共通語とまで言われるようになった英語は、勉強をする上でも、仕事をする上でも大変重要となっています。英語力の最大の目標は、全学生の皆さんが英語アレルギーを持たず、楽しく学べるようになっていたことです。英語を活用できるようにするにはどうしたらよいかとの質問をよくいただきました。上達度は英語に接する（exposure）時間に比例します。読み、話し、聴き、書くのどれでも偏っています。英語に浸る時間が長ければ長いほど、英語力もアップするのです。ところで、本学での英語授業コマ数は、前期九十五コマとなり、特に月曜から木曜日は、一、六時間まで空きが無いほど詰まっています。保健医療系の大学には珍しく、ネイティブ教員による英語コミュニケーションに力を注ぎ、自主開発教材を使っているLL教育は学生の参加意欲を高めています。日本人がもうとも弱くと言われるリスニング力を強化し、聴解力を増して、専門教育の場でも英語を駆使していただきたいと思います。（田中美子）

○言語聴覚センター

今年度より言語聴覚センターでは、毎月一回様々な分野の講師の先生を招きミニセミナーを開催することになりました。これは単に専門分野の知識習得に限定されず、広く教養を身に付けるとともに、各職種間の相互理解、および互いの研鑽の場になることを目的として始めました。

第一回は五月七日（土）に開催され、国立国際医療センター耳鼻咽喉科医長の田山一朗先生に、嚥下の外科的治療について講演を行っていただきました。実際の外科手術場面や嚥下造影の映像などを用いて講演が進められ、嚥下の外科的治療について理解を深めていただきました。当日は近隣から言語聴覚士をはじめ、医師、歯科医師、言語師、介護職の方など多職種にわたる約六十名の方々が参加されました。質疑応答ではそれぞれの職種の立場から様々な疑問や意見が出され、大変有意義な意見交換となりました。

今後毎月一回定期開催を行って行く予定です。職種を越えた多くの方々の参加をお待ちしております。（伊藤昌彰）

○紀要委員会

平成十四年度紀要委員会の構成
新年度の委員が次のように決まりましたので紹介いたします。野原功全（放浪、委員長）、中村勝（看護）、久保野（理学）、鎌倉知子（作業）、大学院、廣田繁子（言語）、菊池優子（経営）、渡邊吉利（福祉）、千葉礼子（理学）、森田雅彦（総合）、澤井一之（情報）、伊藤雅彦（臨床）の十一名です。よろしくお願いいたします。昨年度末で各務明先生（理学）と西尾正輝先生（言語）が退任されました。この紙面を借りて両先生の紀要編集作業への協力に感謝いたします。同学科とも新しい先生に交代となりました。また、今年度からは情報教育センターの先生が新たに委員会に加わることになりました。委員会としては前年度からの継続委員が多いので、平常とあり活動できる体制にあります。すでに平成十四年度第一回紀要委員会を四月十七日（水）に、第二回は五月十五日（水）に開催し、昨年度からの編集活動を継続しております。（野原功全）

○臨床教育小委員会

効果的な臨床実習を目指して
臨床実習には、教育のあらゆる科目を統合し、臨地判断能力の基礎を身に付けていくことを目指します。そして、このプロセスから自らの学習課題を見出す特徴ある科目です。

主たる活動はこの特徴ある科目を円滑に進めるための活動であり、実習施設と本学との密接な連携を維持すること、臨床教育に関する指導上の諸問題に関すること、年間実習計画に関すること、実習前の各種検査の必要性と大学クリニックへの依頼方法に関すること、実習の基本的マナーに関すること、大学関連医療機関での実習に関すること、魅力ある実習の環境整備に関すること等があげられます。

国医医療福祉病院は、ご承知のように新病院が完成しスタートしました。

各学科においても、新病院での実習が円滑に実施されるよう調整を進めております。

実習用の福利厚生の設備として、カンファレンスルーム、更衣室、休憩室、図書室など具体的な提案しております。効果的な実習を進めるには人的・物的環境整備が求められます。（齋藤孝子）

○広報委員会

一、五月十二日、第一回の広報委員会を開催し、四月五日から紙面を刷新することになり検討を開始しました。できるだけ学生の活動が反映されるもの、各学科を横断的につなげる役割を果たせるもの、文字を大きくし読みやすくすることを目標とします。

二、大学のホームページは、広報媒体として大切な役割を持っているので、広報委員が各学科の記事について責任をもつて編集することを申し合わせた（別に担当者がいることは不要）

三、マスコミ懇談会を開催する必要がありますが、検討することにした。（鈴木五郎）

○ポランティア委員会

一、四月二十二日、夜、学内でポランティア・トークライブを開催した。

学生、施設利用者、職員、教員など、約一五〇名が参加した。学内の各サークルの活動紹介、施設利用者からの質問応答など、充実した内容となった。

二、五月七日、火曜日、第二回ポランティア委員会をかねて、大学の内部に学生のボランティア活動に結びつけるセンターを設置する構想の打ち合わせが開始された。

三、五月二十六日、日曜午前、大田原市内を流れる善勝川の清掃が、市民団体と学生などの協力により行われることになり、わが大学でも募集を行い教員と学生三十名が参加する。（鈴木五郎）

○情報化委員会

情報化委員会の今後の活動について
本年度より、権限教授の後任として委員会の活動をお世話することとなりました。各学科の代表の委員の方々と、大学としての情報基盤の更なるレベルアップの為に活動していきたいと考えております。

先般、前任の先生方と引継ぎを行い、六月二十六日に本年の第一回の委員会を開催する事となりました。その折、委員の皆様には情報化についての積極的なご提案を頂き、議論する予定であります。

上半期は、その提案を踏まえ、現状の情報化レベルを客観的に評価したうえで、中長期（三、五年）計画を策定し、情報化グラッドデザインを示していきたいと考えております。

議論して計画を実行していきたいと考えております。皆様方の絶大なご支援とご協力をお願い申し上げます。（阿部浩光）

○図書委員会

野原功全図書館長がご退任され、四月一日より関原成允先生を新図書館長にお迎えしました。

現在委員会では、自主室など場所の増大（増築）や学生の図書利用状況などの図書環境改善問題、人間形成や教養を高めるために学術書以外の教育図書を増やしていくこと、大学院サテライトキャンパスでの図書設置問題等々、図書館の今後の課題について協議をしています。皆さんが快く利用できる図書館を目指して、出来る限りの改善を図り努めていきたいと思います。

また、皆さんも図書館内の静寂を保つこと、飲食・喫煙の禁止及び飲食物持ち込みの禁止、携帯電話の利用禁止などのマナーを守って図書館を利用して下さい。（関原成允）

○国際部・国際交流委員会

一、新年度より、学部九名、大学院十名の新入留学生を迎え、在学留学生の合計は三十四名（学部二十名、大学院十四名）となりました。

二、海外福祉事情・科目のオリエンテーションを教務委員会と共同で五月十日（水）に行いました。平成十四年度の「海外福祉事情」は、夏期海外研修・活動の参加学生は四十八名、引率教員は「ベトナム」「山口光治（福祉）」「中国」「星加坡（理学）」「古川昭人（作業）」「オーストラリア」「清水慶昭（放浪）」「アメリカ・ジョージ・コタ（言語）」の先生方をお願いすることになりました。

三、中国リハビリテーション研究センターから高文柱（医学院院長）はじめ五名の方々が五月十四日、十五日に来校され、理学・作業療法学科の先生方との会議、施設見学等の支援を行いました。

四、平成十四年度の国際保健協力フィールドワークシップに本年より七名（海外研修一名、国内研修六名）の参加候補者を推薦しました。

五、国際交流センターに新しく二名の日本語教員（渡辺晴世、伊藤孝志）が配属されました。

六、平成十四年度の国際交流委員会の委員が決まりました。細井良三（委員長、情報）、田中美子（副委員長、看護）、中村勝（看護）、藤原聡子（看護）、日高陵好（看護）、齋藤昭彦（理学）、石井博之（理学）、山崎せつ子（作業）、田中裕美子（言語）、金場敬恵（放浪）、高橋淑郎（経営）、陳露芳（経営）、東口重信（福祉）、星野美枝子（医学）、梅内拓生（国際部長、大学院）（細井良三）

弓道部 関東大会優勝

私達、弓道部は関東学生弓道選手権春季トーナメントで予選通過し、上位大会に出場することになりました。

先日、関東大会では静寂の中に弦の音、矢が的にあたる音だけが響いている射場や周囲の緊張した雰囲気は圧迫されながらも、ここまで勝ち進むことのできた自らの力を信じ挑みました。各自が練習の成果を発揮することができ、団体準優勝・個人優勝という成績を納めることができました。この経験を生かし、現在全国大会に向け調整中です。



(言語聴覚障害学科三年 杉山智寛)

国際医療福祉大学公開講座 イングリッシュ・イブニング開講のご案内

国際医療福祉大学では、毎年恒例となりました地域の方を対象にした英会話講座「イングリッシュ・イブニング」を下記日程により開催いたします。中学生以上の方ならどなたでもご参加いただける講座です。

今年度は従来の英会話クラス(初級・中級・上級)に加え、初心者対象の「英語の発音と暗唱クラス」を開講します。発音を基礎から学び、美しい音で英語や単語を暗唱するクラスです。英会話クラスは初級・中級・上級の3つのコースに分かれて、「那須の観光名所」をテーマに本学の英語教員と一緒に英会話を楽しみます。

記

日程：7月24日(水) 25日(木) 26日(金)
時間：18:30~20:30

(最終日21:00までとなります)

場所：国際医療福祉大学 L.L教室(D棟1階)他
定員：英会話クラス50名(初級20名、中級20名、上級10名)
英語の発音と暗唱クラス20名(初心者対)

定員になり次第締め切ります

参加費：3日間で2,000円(教材費と茶菓子代)

本学教員作成のテープとプリントを準備いたします。受講生は筆記用具をご持参下さい。なお、最終日は本学レセプションルームでティーパーティを行います。

申し込み方法：7月10日(水)受付開始
月曜日~金曜日午前9時から午後5時までに国際医療福祉大学事務局総務課までお電話でお申し込み下さい。なお、土・日・祝祭日は受付しておりません。
希望クラス(英会話クラス・英語の発音と暗唱クラス)と英会話クラスは希望コース(初級・中級・上級)をお申し込み時に伝えてください。

連絡先：事務局 総務課(TEL 0287-24-3000)

学生委員会・学生課より

生活上の注意

昨年の痛ましい事件から一年が経過しました。今年はいっしょに大学内外で学生の皆さんが被害者になる事件が多発しています。

以下のような点に注意して、自分を守ってください。

- 一、すまの玄関・窓などの施錠を厳重に。
- 二、防犯ブザーなどの警備器具を常時携帯する。
- 三、夜間の単独行動はしない。必要な場合は複数で行動する。
- 四、迷惑電話が同じ相手から頻りにかかって来るようになると、番手を変更する。
- 五、自分の住所・電話番号などを簡単に教えない。

このほか「安全生活マニュアル」等も参考にしてください。トラブルが発生したらすぐに学生課に相談/報告してください。

メールによる相談窓口

E-mail: adviser@iuhw.ac.jp

「マロニエ会」より

第四回総会開催

についてのお知らせ

今年度の総会は、七月十四日(日)十三時三十分から、国際医療福祉大学学内のカフェテリアで開催される予定です。昨年度、学科・支部会の活動支援に力を入れてまいりましたが、今年度は、学科・支部会の活動支援、同窓会名簿の作成、会報の作成、就職情報の提供、ホームページの運営、スカイパーフェクトTVによる医療福祉チャネルの提供提供といった昨年度までの事業に加え、新規事業を十四年度の事業計画に組み込み、総会で承認が得られれば、事業を展開していく予定であります。

また、総会の終了後は、同じ会場にて懇親会を開催する予定です。卒業生同士、近況を報告しあうもよし、現役生は卒業生から様々な情報を聞き出すもよし、皆様の情報交換の場となればと思いますので、是非ご参加ください。

(マロニエ会代表 鈴木康文)

メディア室からのお知らせ

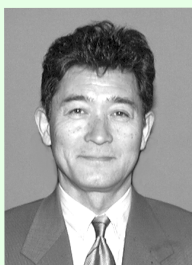
この度、広報誌に関するお問い合わせメールアドレスを設置いたしましたのでお知らせいたします。

メールアドレスは

media@iuhw.ac.jp

となっております。

広報誌以外にも大学ホームページやスカイパーフェクトTVに関する意見やご要望なども、お待ちしておりますので、どしどし上記メールアドレスまで連絡をおよせください、お待ちしております。



「私が感銘を受けた本」 第17回

書名：現代の経営 上・下

著者：P・F・ドラッカー

出版社：ダイヤモンド社

紹介者：医療経営管理学科 中島明彦

実は私がこの欄に紹介したかったのは同じ著者による、「新しい現実」ダイヤモンド社1989年です。「新しい知識社会」におけるこれからの経営は、オーケストラや病院の経営から学ぶべきであると彼は述べています。それまで永く病院経営の現場で仕事をしていた私は、この本を読んで社会人大学院へ進学して経営学をもう一度深く学び、経営知を理論知として再構築しようと決心しました。まさに人生の転機を与えてくれた本です。

しかし残念ながら本書は絶版になっているので、代わりに彼の代表的著作の中から上記を挙げました。ドラッカーは、事業の目的は単なる最大利潤の追求ではなく、「顧客の創造である。」と見事に看破しました。また今日の目標管理制度の有効性も示唆しています。

教員紹介

所属・職位 生年 出身校 専門分野 直前の勤め先
主要著書または論文 本校における担当科目 趣味



江崎 莉枝
(エパタヨシエ)

看護学科 教授
8月9日
四国学院大学大学院文学研究科
社会福祉学専攻
母性看護学・助産学
川崎医療福祉大学
セルフヘルプグループの現状と展望
～女性の健康運動を中心に～
母性対象特性・方法論
旅行



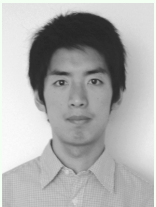
内野 聖子
(ウチノセイコ)

看護学科 助手
昭和46年1月22日
東京医科歯科大学大学院医学系研究
科保健衛生学専攻(老人看護学教室、
博士前期課程)
老人看護学
浴風会病院
痴呆性高齢者への回想法の効果
臨床看護学実習、看護技術論
散歩、卓球



佐野 裕子
(サノユウコ)

理学療法学科 臨床講師
昭和39年6月13日
中部リハビリテーション専門学校
内部障害系理学療法
東京医科大学病院
呼吸管理 専門医に近く最新の治療
中外医学社
肺理学療法
ゴルフ



勝平 純司
(カツヒラジュンジ)

理学療法学科・技術助手
昭和51年8月21日
東北福祉大学社会福祉学部/東北大学
大学院医学系研究科障害科学専攻
人間工学
東北福祉大学感性福祉研究所
研究協力員
福祉援助工学概論(一部担当)
スノーボード、英会話

私の研究ノート

「高齢者虐待の防止に向けた 社会福祉専門職の役割とは？」

医療福祉学科 山口光治



私は、現在取り組んでいる研究は、高齢者虐待の防止と介入の問題です。この問題との出会いは、高齢者福祉の現場で仕事をしていた時からで、かれこれ十年にわたります。この問題に取り組む目的は、社会福祉専門職として虐待の発生を防止し、また発生している虐待を早期に見出し、適切で専門的な援助を行うことにより、高齢者の人権を擁護していくためです。そして、そのためには高齢者虐待の定義や発生のメカニズムを明らかにしていくことが不可欠となります。

高齢社会が進展する中、家庭内や施設内において、さまざまな高齢者への虐待の問題が指摘されてきています。ひとことに高齢者虐待といっても、国際的にみても、またわが国においても共通の定義は構築されておらず、その現状です。しかし、表現の相違はあるものの、高齢者自身の意思に反した行為により、心身に傷を負わせたり、財産を搾取するといった人権侵害行為を指し起す。具体的な形態としては、他人との関係において起こる身体的虐待、心理的・情緒的虐待、性的虐待、財政的虐待、世話の放任(neglect)、自分自身との間で起こる自己放任(self-neglect)、自己虐待(self-harm)などがあります。また、発生する場所による区

分として、家庭内における虐待と施設内における虐待があります。

高齢者虐待の問題は、米国ではすでに一九八〇年代に社会問題として認識され、多くの研究や調査が行われてきました。そして、虐待防止のための法制度や国家レベルの専門機関が設立され、通告制度が整備されることによって早期発見、早期対応がなされていきます。

わが国においては、一九九〇年代中頃より本格的な調査・研究が開始されましたが、また公的機関による実態調査や高齢者虐待の防止に向けた法律の制定などは行われていません。そのため、現状では虐待の疑いがあったとしてもどこへ連絡したらよいのかが不明確であったり、強制的な介入権がないために十分な対応がなされない場合も少なくありません。この防止法の制定を視野に入れない限り、臨床現場における虐待の予防・発見・介入方法の研究や虐待への対応のシステム化を目指すと共に、臨床を担う専門職の養成教育や現任継続のあり方などにも幅広く取り組まねばなりません。それゆえ、高齢者虐待研究は、研究と実践、そして教育と三位一体となることが求められているといえます。このテーマに関心がある方は、どうぞ研究室を訪ねてみてください。

リレーエッセイ

「QOLは食事から・・・」



医療福祉学科 本多 勇
私は、「食べる」ということが好きです(嫌いな人はあまりいないでしょうが)上手くはないですが、料理も好きです。仲間と会食をするのも好きです。
去年はじめ、舌の病気で入院していた際、テレビを見てみると、CMの多くは、食べ物・飲み物のものでした。中華料理、カレー、ビール…。鼻腔栄養をとっていた当時の私には、まさに「目に毒」でした。口

から食事を摂れるようになって、改めて実感した味わうことの喜び。そして退院して実感したのは、仲間や家族と好きなものを食べる食事の美味しさ。医食同源という言葉もあるように、楽しい食事をすれば、身も心も健康になりそうではありませんか。栄養バランスのとれた楽しい食事で、(実習のある)暑い夏にむけてスタミナをつけて参りましょう！

ちなみに、最近は「納豆健康法」(＝なるべく三食納豆を食べる)を遂行しています。納豆には、強い殺菌力があつたり血管・心臓・血流の健康に非常に良い効果を発揮するそうです。ネバリのある生活ができるかな・・・。

I UHWクイズ～第31弾～当選者発表

前回のクイズはいかがだったでしょうか。皆さん、図書館などに調べに行ったことと思います。解答は右記の通りです。

惜しい解答者もいましたが、今回は残念ながら当選者なしです。少々難しかったでしょうか。旅行ギフト券はキャリアオーバー、次回に繰り越しになります。

前回の解答

W E L T

ドイツ語で「世界」という意味でした。

サークル紹介 第2弾

交響楽部

今回は、弦楽器で素晴らしい音のハーモニーを奏でる交響楽部の皆さんにインタビューをしてまいりました。



△中村 友美さん (交響楽部 部長)

―はじめに学科と学年、お名前を教えてください。

―交響楽のほかにオーケストラや吹奏楽などがありますが、交響楽の特徴を教えてください。

―オーケストラというのは一般名として知られているのですが、交響楽はオーケストラと同じものですか。

―現在何名で活動しているのでしょうか。

―現在四十三名となり、今年から四十名を超えました。

―新学期が始まって二ヶ月がたちましたが、今年一年生は何名入りましたか。

―今年四月の頃から新入部員が入ってくれて現在の所九名の新入部員が入りました。私たちの部活としては今年新入部員が多く、この九名というのは例年に比べてとても多いほうです。私たちの代では三年生



△すばらしい演奏を披露してくれた練習中の部員のみなさんです。

で十五人いるんですが、各学年多くても十人以下で九名も入部してくれたのはとてもうれしいです。

―交響楽の魅力はどんな所ですか。

―交響楽は一つの音楽をみんなで力をあわせてハーモニーを作っていくというのが魅力の一つなのですが、私たちは各学年一年生から四年生まで全学年所属していて、その学年の幅を超えてみんなで仲良く演奏できる所がとても魅力に感じるところです。

―学内での練習のほか学外での演奏というのもあるのですか。

―今年五月にあるのですが大田原赤十字病院でふれあいコンサートでの訪問演奏会や、大学内にあるリハビリテーションセンターなどでも演奏会をしています。

―皆さんとても演奏が上手なんですけど、いつごろから交響楽を始めたのですか。

―私たちの部活は高校の頃から交響楽をやっている人もいますが、ほとんどが大学から始めた初心者です。

―学校ではいつもどこで練習しているのですか。



△私たちの演奏をぜひ聴きにきて下さい。待っています。

―最後に交響楽部の魅力を教えてください。

―交響楽部は、学年問わずみんなが音楽を楽しむ部活です。ぜひみなさん演奏を聴きにきて下さい。

―最後に部員の皆さんに交響楽の魅力について聞きました。

―自分の好きな曲を聞いている人々と各パートのいる人々を合せて音楽が出来るということに魅力を感じます。

(作業療法学科四年 清水功一さん)

―弦楽器なので独特の頼もしさや、微妙なニュアンスがあり、みんなでメロディーを作っていくのが弦楽器であり交響楽の魅力だと思います。

(福祉学科三年 前田直子さん)

―日常の生活ですと自分の学科以外との交流がありませんが、交響楽部には各学科から人が集まって違う学科の人と交流が出来るので、交響楽部の魅力だと思います。

(言語聴覚学科三年 高橋 茜さん)

(インタビュへの協力及び素晴らしい演奏を披露して頂きありがとうございます)

編集後記

新年度になり各学科から選出される広報委員会のメンバーも入れ替えがありました。そして新体制の編集による最初のIUHWをお届けいたします。今回の44号は、医療経営管理学科が初優勝した運動会、新学科の紹介、新任のお二人の学科長のインタビューなどなど、とにかく新しいことはいっぱいあります。

新体制の広報委員会では、より読みやすく親しみやすい紙面づくりを目標にしています。お気づきの点など、ご意見ご感想をお寄せください。(44号担当:小林雅彦、本多真)

IUHWクイズ ~ 第32弾 ~

盛り上がってますね、2002 FIFA WORLD CUP KOREA JAPAN! 行け行け日本、韓国!

決勝戦は6月30日、横浜! さて、どこが優勝するでしょう!

...さて、それにちなみクイズを少し。解答を所定の欄に書き込んで、切り取って、事務局窓口外側のメールボックスに投函してください。正解者の中から抽選で1名に旅行ギフト券をプレゼント! 締切は、7月5日(金)です。

- 問題
- 国際サッカー連盟 (FIFA: Federation Internationale de Football Association) は、何年に創設したでしょうか。
 - 露仏同盟が組まれた年 (1891)
 - 日露戦争が起こった年 (1904)
 - 真珠湾攻撃が起こった年 (1941)
 - 第二次大戦が終わった翌年 (1946)
 - すばり、現在のFIFAの加盟国数は?
 - 152カ国
 - 173カ国
 - 204カ国
 - 245カ国
 - 2002年のFIFAワールドカップは、初めてアジアでしかも2カ国の共催で行われています。さて、競技開催都市は全部で何カ所?
 - 10カ所
 - 16カ所
 - 20カ所
 - 24カ所
 - 日本サッカー協会 (JFA) のシンボルマークは鳥です。どんな鳥でしょう?
 - 4本足の鷹
 - 3本足の鷹
 - 2本足の鳳凰
 - 3本足の鳥

解答用紙

学籍番号
名前

解答 1. 2. 3. 4.